

平成 25 年度 普及に移す農業技術（第 1 回）

[分類]	普及技術
[成果名]	水稲中期除草剤オシオキMX 1 キロ粒剤は水田雑草防除に有効である
[要約]	移植水稲に前処理剤との体系で、中期除草剤オシオキMX 1 キロ粒剤を移植後14日からノビエ4葉期に処理すると、効果的にノビエ等の一年生雑草およびホタルイの防除が可能である。
[担当]	農業試験場作物部、農業技術課
[部会]	作物部会

1 背景・ねらい

省力的で除草効果の高い移植水稲用中期除草剤の実用性を検討し、新しく利用できる剤として普及技術とする。

2 成果の内容・特徴

移植水稲に前処理剤との体系で、中期除草剤オシオキMX 1 キロ粒剤を移植後 14 日からノビエ 4 葉期までに 1 kg/10a 湛水散布することで、効果的にノビエ等の一年生雑草、およびホタルイの防除が可能である。

農薬登録内容

オシオキMX 1 キロ粒剤

[一般名および成分含有量] アジムスルフロン：0.18%、ピリフタリド：1.8%、メソトリオン 1.0%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性]：アジムスルフロン：A類、ピリフタリド：A類、メソトリオン：A類

[対象作物に対する適用登録状況]（平成 25 年 10 月 7 日現在 JPP-NET 確認）

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の使用 回数
移植水稲	水田一年生雑草及びウリカワ、セリ、ヒルムシロ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ	湛水 散布	砂壤土～ 埴土	移植後 14 日～ ノビエ 4 葉期 ただし、収穫 45 日前まで	1 kg	1 回

3 利用上の留意点

- (1) クログワイ、オモダカ多発田では有効な剤との体系で使用する。
- (2) 利用上の留意事項は、「農作物病害虫・雑草防除基準（長野県）」の除草剤の使用（中期除草剤）を参照する。
- (3) 成分としてメソトリオンを含むオシオキMX 1 キロ粒剤は本県育成の多収・他用途水稲品種「ふくおこし」、「ほそおもて」に対して薬害（白化～枯死）を生じることがある。また、(独)農研機構育成の一部の多収水稲品種にも薬害を生じることがある。(詳細は(独)農研機構中央農研2010年3月26日付け、プレスリリース参照)

4 対象範囲

県下全域

## 5 具体的データ

(1) 平成 25 年に農業試験場で実施した試験では、初期剤との体系で移植後 14 日、移植後 20 日（ノビエ 4 葉期）処理で除草効果は高かった（表 1）。薬害はなかった（データ略）。

表 1 オシオキMX 1 キロ粒剤の雑草防除効果<sup>a)</sup>（平成 25 年、農業試験場）

除草剤名	処理時期 <sup>b)</sup> 処理量(/10a)	ノビエ	タマガヤ ツリ	一年生広葉 <sup>d)</sup>	ホタルイ	合計
オシオキMX 1 キロ粒剤 <sup>c)</sup>	+14 日 1kg	0	0	t	t	t
	+20 日 1kg (ノビエ 4 葉期)	0	0	t	1	t
(比較)マメットSM 1 キロ粒剤 <sup>d)</sup>	+20 日 1kg	0	0	0	t	0
無処理	—	57.6	1.1	91.4	82.2	232.3

a) 除草剤各処理区の数値は対無処理比(%)。無処理区は乾物重(g/m<sup>2</sup>)。発生はあるものの、四捨五入で0になる場合は「t」として示した。

b) 処理時期の+は移植後日数。

c) 初期剤として試験区はベアス 1 キロ粒剤、比較はエリジャン乳剤を移植直後に散布。

d) コナギ、アゼナ、ミジハコベ、キカシグサの合計。

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場（標高 340m、中粗粒グライ土）。品種は「あきたこまち」。中苗 3 本植(22.2 株/m<sup>2</sup>)。代かきは 5 月 11 日、移植は 5 月 14 日。1 区 7.2 m<sup>2</sup> 2 区制。

調査方法：移植後 53 日後に調査。

(2) 平成 25 年に富士見町の現地ほ場で実施した試験では、初期剤との体系で、移植後 21 日（ノビエ 4 葉期）処理で除草効果は高かった（表 2）。薬害はなかった（データ略）。

表 2 オシオキMX 1 キロ粒剤の雑草防除効果<sup>a)</sup>（平成 25 年、諏訪農業改良普及センター）

除草剤名	処理時期 <sup>b)</sup> 処理量(/10a)	ノビエ	一年生広葉	ホタルイ	合計
オシオキMX 1 キロ粒剤 <sup>c)</sup>	+21 日 1kg	0	0	0	0
(比較)サンパンチ 1 キロ粒剤 <sup>c)d)</sup>	+21 日 1kg	0	0	0	0
(無処理) 中期剤無処理 <sup>d)</sup>	+5 日 500ml	0.5	3.5	0	4.0

a)、b)は表 1 と同じ。

c) 初期剤としてアルハープフロアブルを移植前 7 日、ピラクロンフロアブルを移植後 5 日に散布。

d) 比較は試験区の隣接ほ場で実施。

試験方法：試験場所は富士見町立沢（標高 1050m、黒ボク土 壤土）。中苗、機械移植。入水は 5 月 1 日、代かきは 5 月 22 日、移植は 5 月 25 日。1 区 10a、反復なし。

調査方法：7 月 5 日に 50×50cm の枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は 1 カ所の調査を行った。

## 6 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

普通作物の新規農薬等の効果試験、平成 24～25 年度(2012～2013 年度)、民間受託